

平成 29 年度 学生による授業評価結果報告

学芸員課程の全科目に授業評価が導入されて、本年度で三年目を迎えました。授業評価は履修学生の生の声を吸い上げ、各授業の得失を明らかにし、その授業内容を改善することを目的としています。また、授業評価の内容を公開することで、授業評価に協力していただき学生の意見が改善に反映されていることを明らかにするとともに、授業評価を受ける教員に対して授業改善へのモチベーションを高めることも眼目となっております。これらの点に鑑みて、三年目に当たる本年度の授業評価は、その効果が着実に浸透していることを示していると考えられます。2の「学修内容の分量は適切でしたか」という項目については、28年度は六割程度が「適切」と回答していましたが、本年度は八割を超える学生が「適切」と回答しています。ここ数年、シラバスの内容の詳細化が進んでおり、その経緯を反映して、3の「シラバス（授業計画や時間数）に沿って行われていましたか」については、五割半が「そう思う」と回答しており、前年度の四割弱を上回っています。4の「学生の理解度を確認しながら授業が進められていましたか」について、「そう思う」「ややそう思う」が七割を超えている点は注目に値するでしょう。ちなみに、前年度は両回答の合計は五割程度でした。ただし、6の「教員の説明や黒板の使い方、書き方は分かりやすいものでしたか」という項目については、「どちらともいえない」「あまり思わない」「思わない」の合計が五割半を越えており、4の項目に対する回答を加味するならば、ここでの低評価は主に「板書」に起因すると推定できるので、引き続きの改善が求められるところです。

最後に、履修学生自身についての項目について、13の「宿題・課題、予習・復習にかけた勉強量はどれくらいでしたか」については、「3時間以上」「2時間程度」の回答の合計は、前年度とほぼ変化が見られません。この点は、担当教員が積極的に課題を与えて、勉強に取り組ませる工夫が必要と考えられます。一方、14の「積極的に発言や質問をしましたか」については、「積極的にした」「やや積極的にした」の回答の合計が、前年度三パーセント程度と極めて低調でしたが、今回十五パーセントと改善しています。しかし、この数値をさらに向上させるべく、学芸員課程の全教員に工夫と奮起を大いに期待したいと思います。

以 上